

# JSTの電子ジャーナル事業

独立行政法人科学技術振興機構(JST)

イノベーション推進本部 知識基盤情報部長 大倉克美

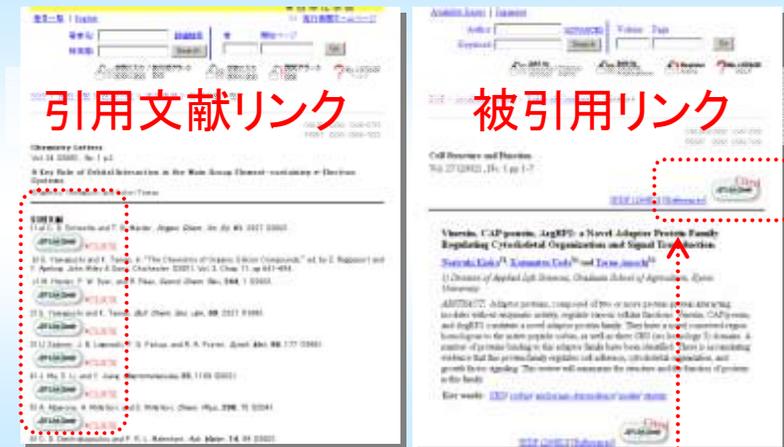
科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会(第41回)

平成23年7月1日

# 目次

- 電子ジャーナル事業の現況
  - (1)全体機能の概要
  - (2)事業成果
  - (3)J-STAGE参加学会数・誌数の推移
  - (4)J-STAGE公開ジャーナルの分野別誌数
  - (5)J-STAGE掲載論文数と月間アクセス数の推移
  - (6)ジャーナルアーカイブ
  - (7)ジャーナルアーカイブの分野別誌数
  - (8)ジャーナルアーカイブ掲載論文数と月間アクセス数の推移
- 海外プロモーションによる閲覧性の向上
- 利用学協会の連携・スキル共有の促進、情報提供
- J-STAGE3のインパクト
- ジャパンリンクセンターのインパクト
- 各種委員会

# 電子ジャーナル事業の現況 (1) 全体機能の概要



**引用文献リンク**

**被引用リンク**

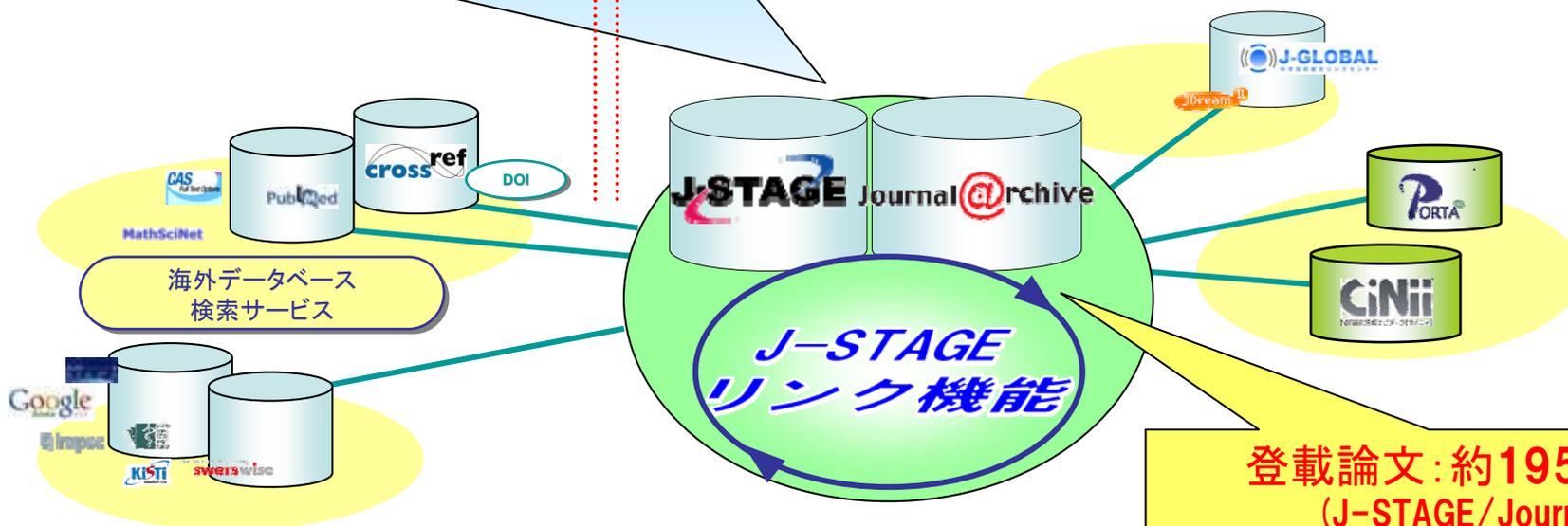
**COUNTER準拠  
利用統計の提供**



**剽窃検知サービス  
(導入試行中)**



全文検索機能、早期公開、電子付録、Graphical Abstract、  
資料アラート等も提供



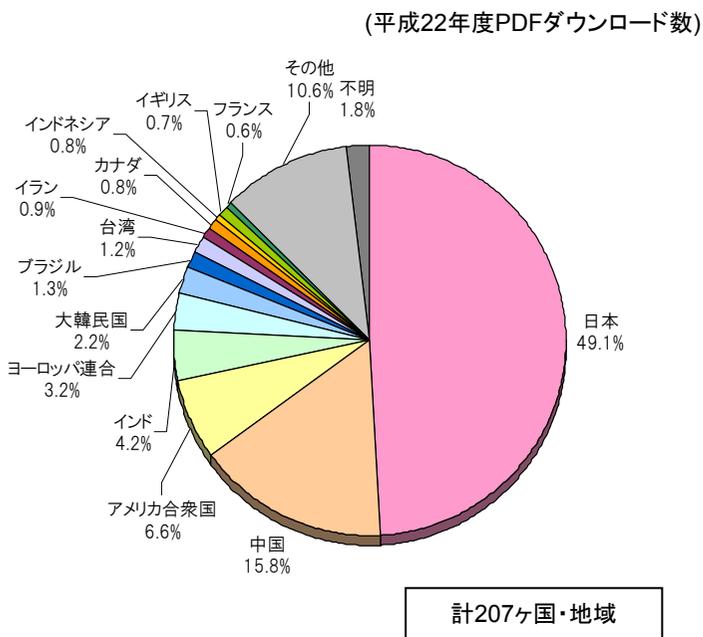
登載論文: 約195万記事  
 (J-STAGE/ Journal@rchive  
 登載ジャーナル・予稿集)

\*DOI: Digital Object Identifierの略称。インターネット上の電子コンテンツに恒久的に与えられる国際的識別子

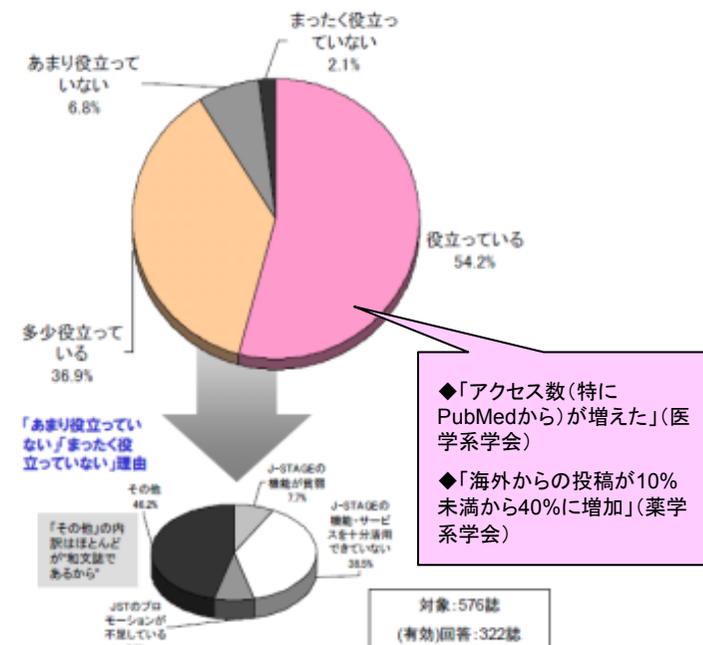
# 電子ジャーナル事業の現況 (2) 事業成果

## ● 成果

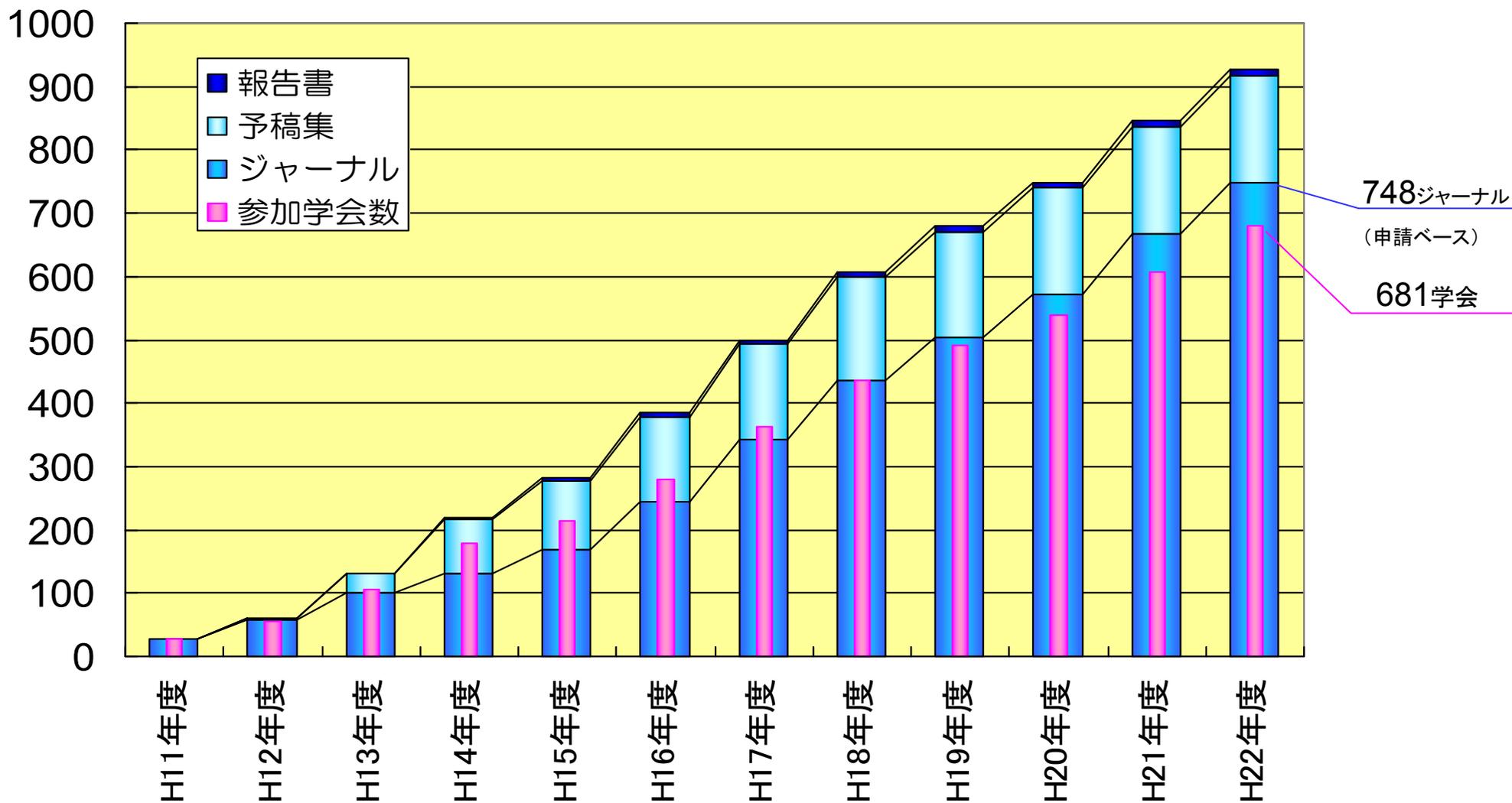
- ・毎年数十学協会 (H22年度実績: 81誌) がJ-STAGEを利用することで新規にジャーナルの電子化を開始
- ・海外から年間1,574万件 (1誌あたり平均2万件以上: H20年度実績) のダウンロード数
- ・海外からの投稿が増加  
(例: 薬学系学会における海外からの投稿率…2000年頃: 10%未満→2007年: 約40%に増加)
- ・H20、21、22年度に利用学協会を対象に実施した満足度調査では、約9割の学協会が「海外発信力強化に役立っている」と回答



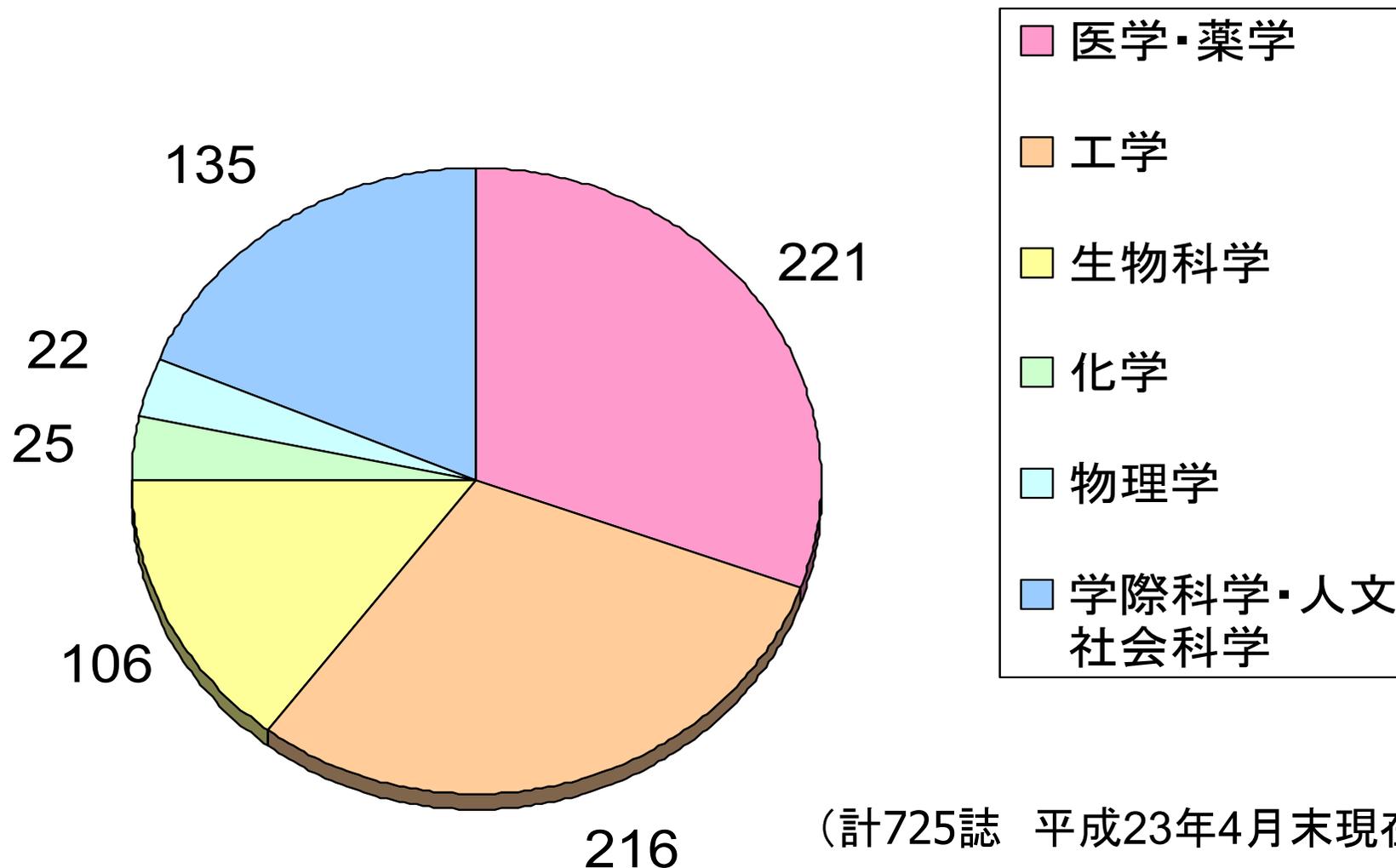
J-STAGEは貴誌の国際発信力強化に役立っていると思われませんか。



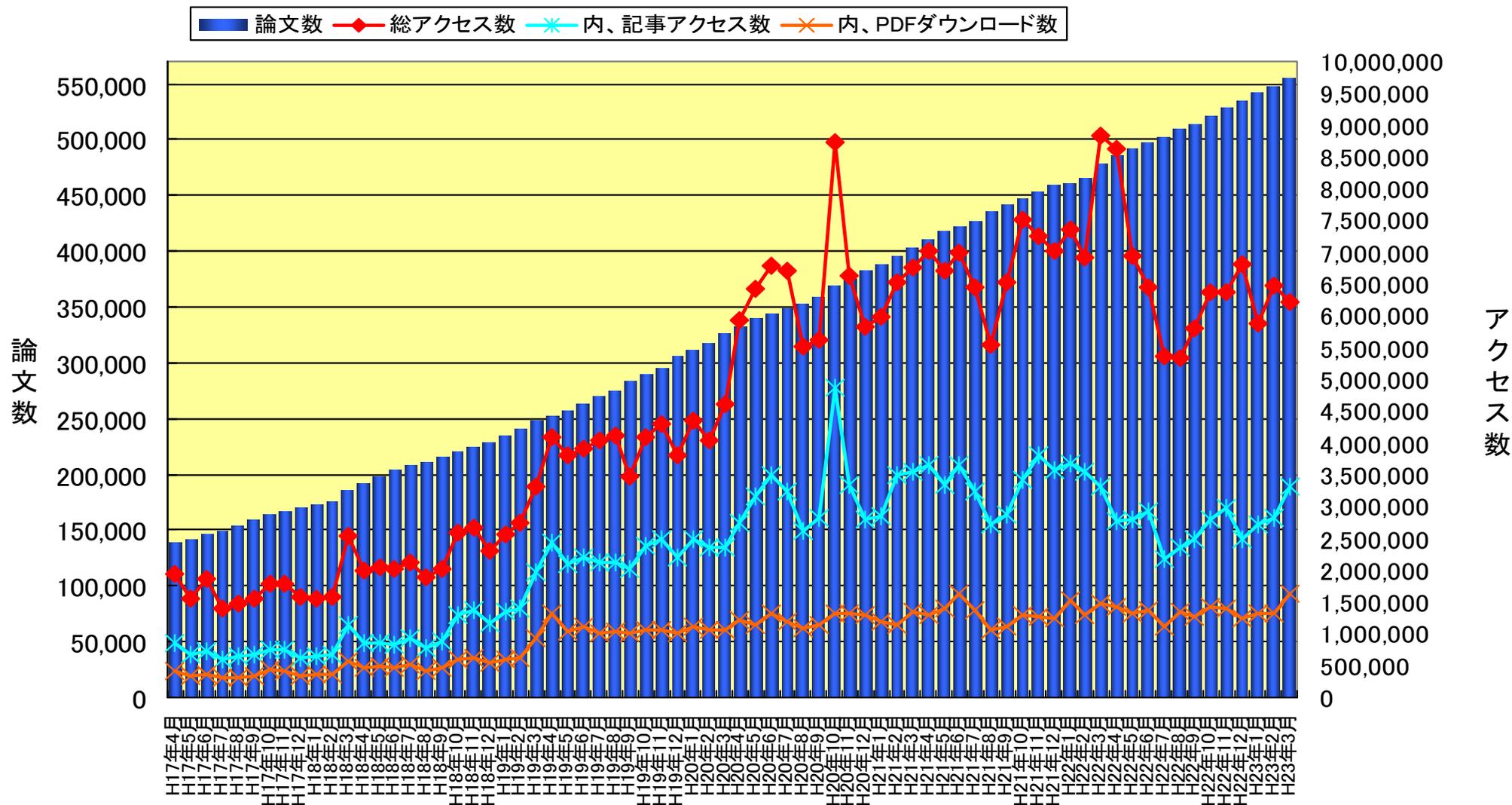
## 電子ジャーナル事業の現況 (3) J-STAGE参加学会数・誌数の推移



## 電子ジャーナル事業の現況 (4) J-STAGE公開ジャーナル 分野別誌数



## 電子ジャーナル事業の現況 (5) J-STAGE掲載論文数と月間アクセス数の推移



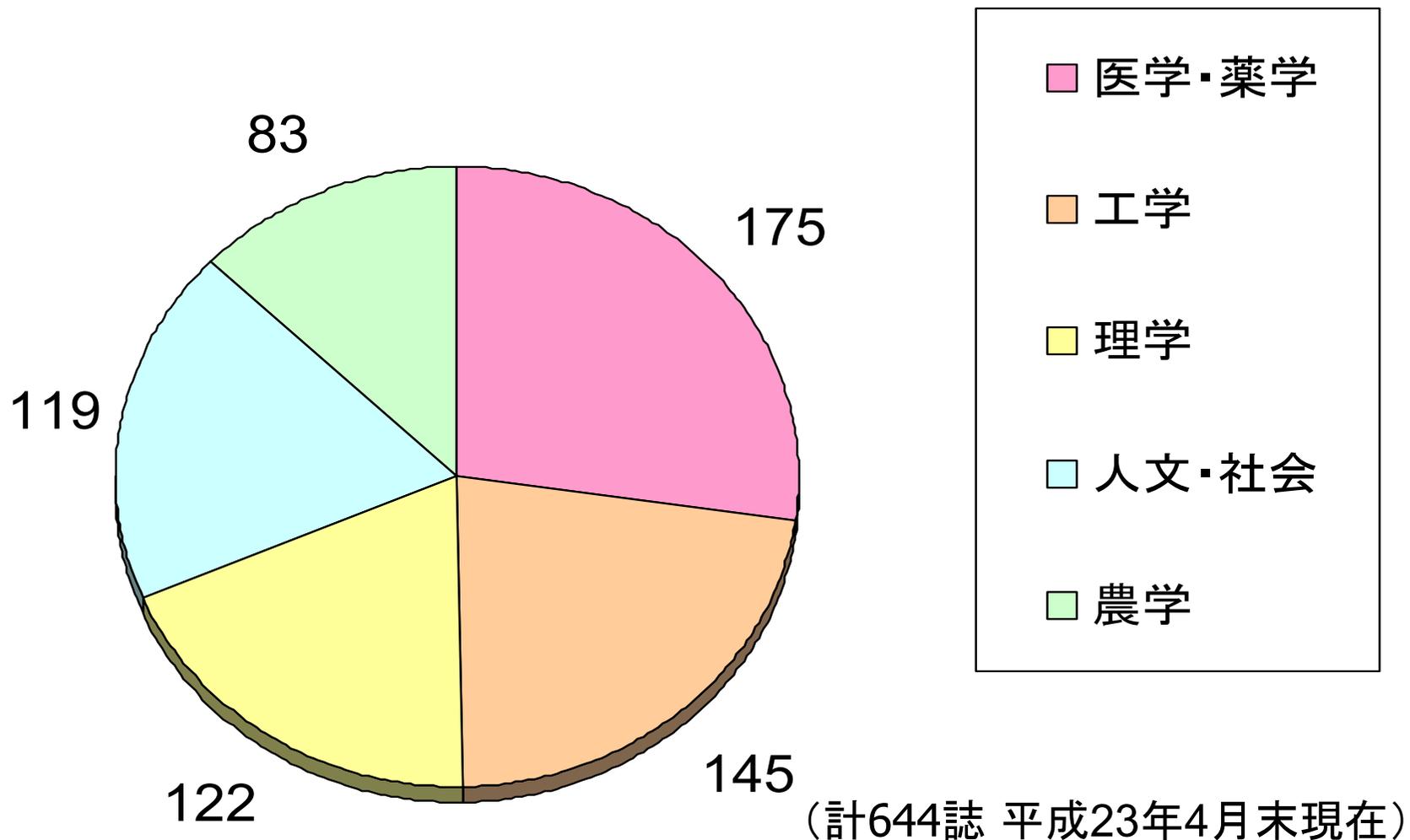
## 電子ジャーナル事業の現況 (6) ジャーナルアーカイブ

- Journal@rchive
  - 各年度における選定誌数
    - 平成17年度・・・74誌
    - 平成18年度・・・65誌
    - 平成19年度・・・58誌
    - 平成20年度・・・181誌
    - 平成21年度・・・266誌
    - 計 644誌

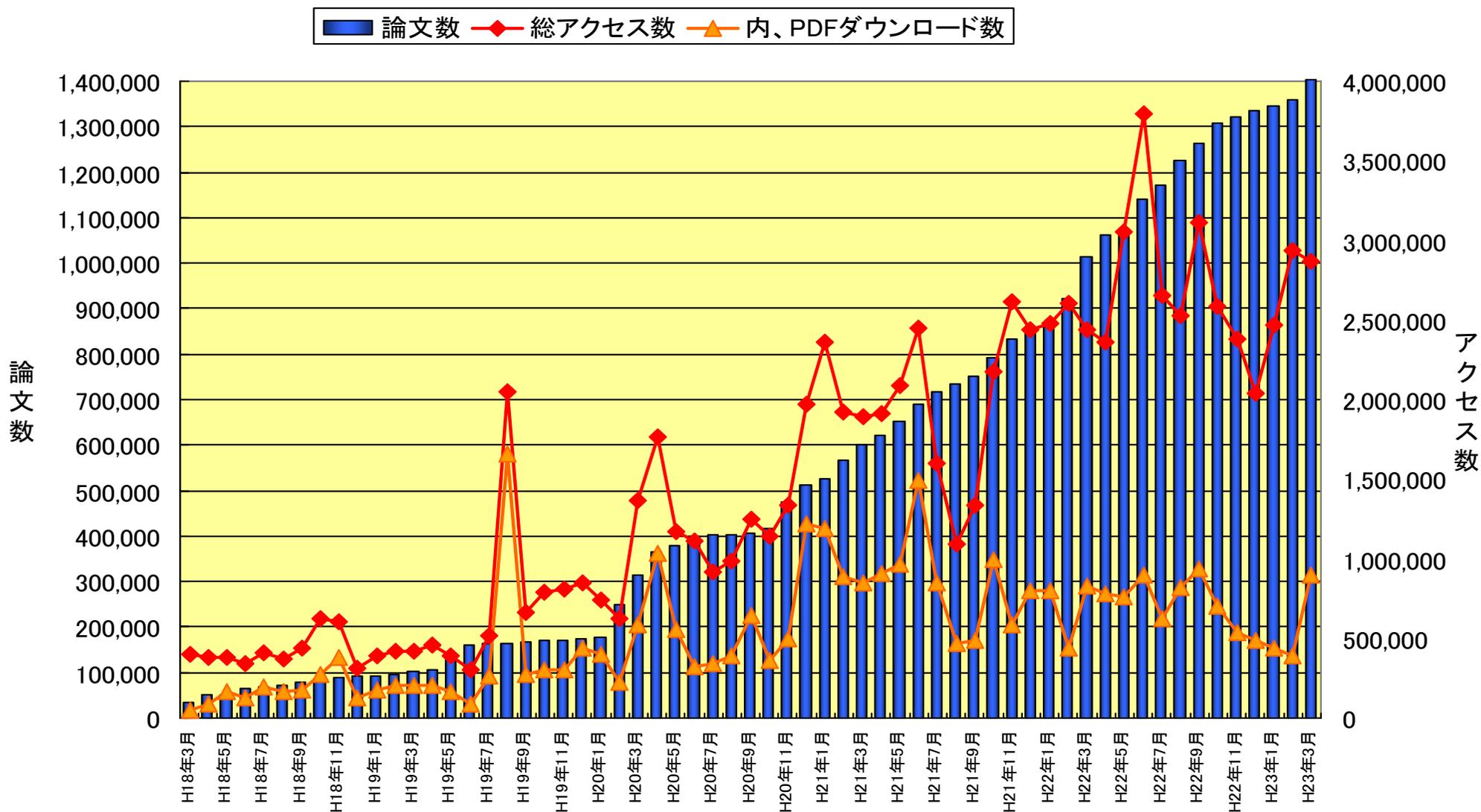
公開論文数：  
平成23年4月現在：約140万件



## 電子ジャーナル事業の現況 (7) ジャーナルアーカイブ 分野別誌数



## 電子ジャーナル事業の現況 (8) ジャーナルアーカイブ登載論文数と月間アクセス数の推移



# 海外プロモーションによる閲覧性の向上

## 話題の学会誌: Journal of Photopolymer Science and Technology

The Conference of Photopolymer Science and Technology (CPST)

J-STAGE 登録誌「Journal of Photopolymer Science and Technology (JPST)」が、トムソン・ロイター社のデータベース「Essential Science Indicators (ESI)」において、新規に掲載された化学分野で最も被引用が多いものとなりました。発行者の The Conference of Photopolymer Science and Technology (CPST) 種に、経緯・編集上の参考点などについてお寄せいただきました。

※: Essential Science Indicators—トムソン・ロイター社のデータベースから得られる学術論文の出版数と被引用数のデータに基づき、研究業績に関する統計情報と動向データを集積 (同社 Web サイトより) したデータベース。

JPST が引用トップとなったことを慶ぶ

JPST 編集主幹 津田 穂 様・中村賢市郎 様

"According to a recent analysis of Essential Science Indicators® data from Thomson Reuters, the Journal of Photopolymer Science and Technology entered the database in the field of Chemistry with the highest cite count among new entrants."

Journal of Photopolymer Science and Technology (JPST) に Thomson Reuters から上記のメッセージが届き、就いては JPST の the journal's citation achievements について Interview に応じてほしいという。その Journal Interview は ScienceWatch の 2010 年 4 月号に掲載された。

The Conference of Photopolymer Science and Technology (CPST) はフォトポリマーの基礎科学と応用を研究する科学者と技術者のための世界レベル国際フォーラムであり、毎年 6 月に国際会議 The International Conference of Photopolymer Science and Technology (ICPST) を開催してきた。27 回目にあたる今年、ICPST-27 が 6 月 22-25 日に千葉大学で開かれる。JPST は CPST が発行する国際学術誌で、the International Publication Forum に相当する。年間 6 冊、約 800 頁、1988 年に Vol.1 を発刊し、2010 年には Vol.23 を出す。このほか CPST は、毎年、フォトポリマー研究の活性化のため、優れた研究業績を挙げた研究者に対して The Photopolymer Science and Technology Award を贈っている。

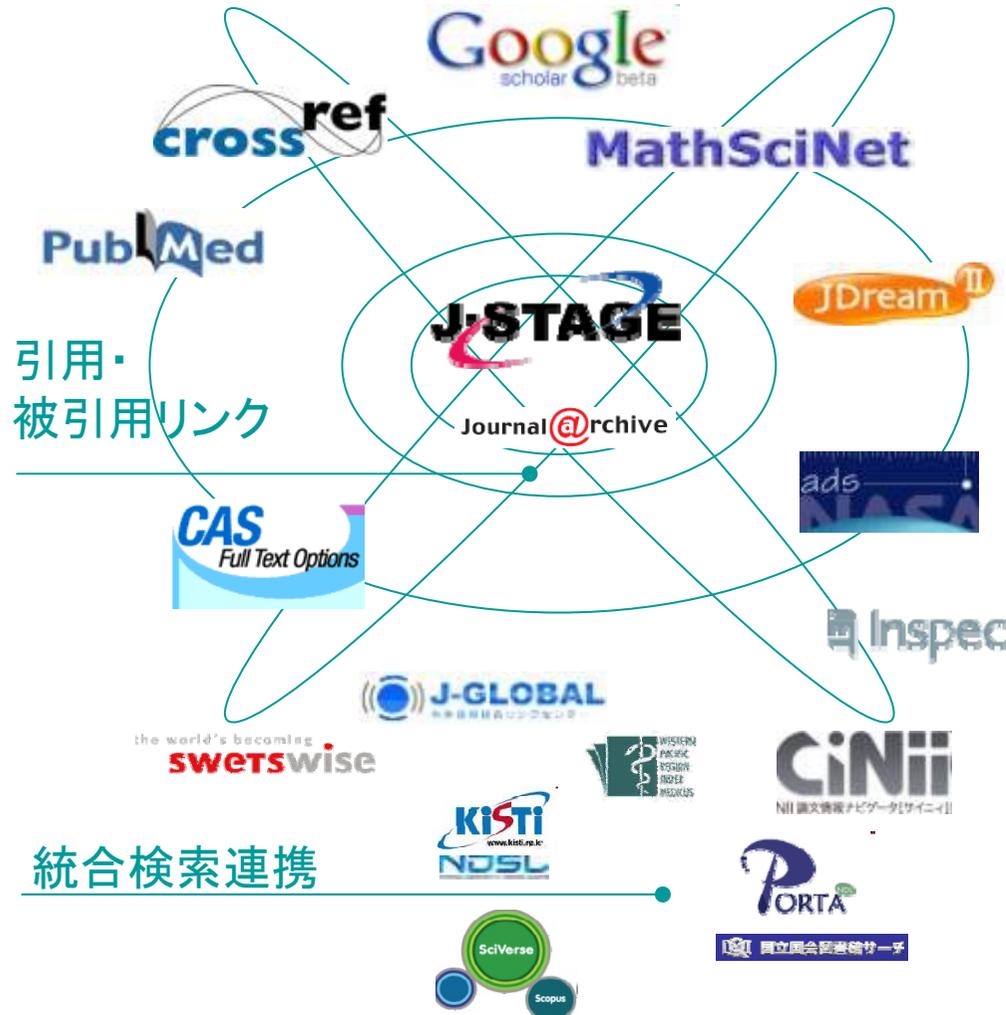


CPST 代表、  
JPST 編集主幹  
千葉大学名誉教授  
津田 穂 先生

1959 年に発明されたプレナ型トランジスタをつくるためにはフォトポリマーが必要であった。プレナ型トランジスタが、半導体集積回路 (IC)、LSI へと発展していくと共に、フォトポリマーの性能の更なる高度化が繰り返し要求され、それに応えるためさまざまな分野の研究者・技術者が多数、フォトポリマーの研究に参加するようになった。今や、半導体集積回路は高度情報化社会の隅々まで行き渡っていて人々の生活になくはないものになっており、これを製造するために不可欠なフォトポリマーは、「最も成功した機能性高分子」と言われている。極めて高度な科学技術の結晶であるにも拘らずあまり世に認められなかったのは、その発展過程を反映してフォトポリマーの論文が様々な学術誌に関連論文として散らばって発表されたからである。1988 年の JPST 発刊以前、フォトポリマーの論文は種々の専門誌の全く異なる主要論文の春の中に埋没していた。JPST はこの隠れた重要な研究成果を一つの学術専門誌に集め、その高値を明らかにする役割を果たした。JPST が the database with the highest cite count となったのは、CPST がこれまで地道に行ってきた上述の様々な努力が世界のフォトポリマー研究者、技術者のコミュニティに評価された結果であろう。J-STAGE による JPST の電子ジャーナル化も寄与している。端末さえあれば、何時でも何処でも JPST の全文が読めるという電子ジャーナルの利便性は、JPST 掲載の情報の重要度が高まれば高まるほどその力を発揮したものと思われる。

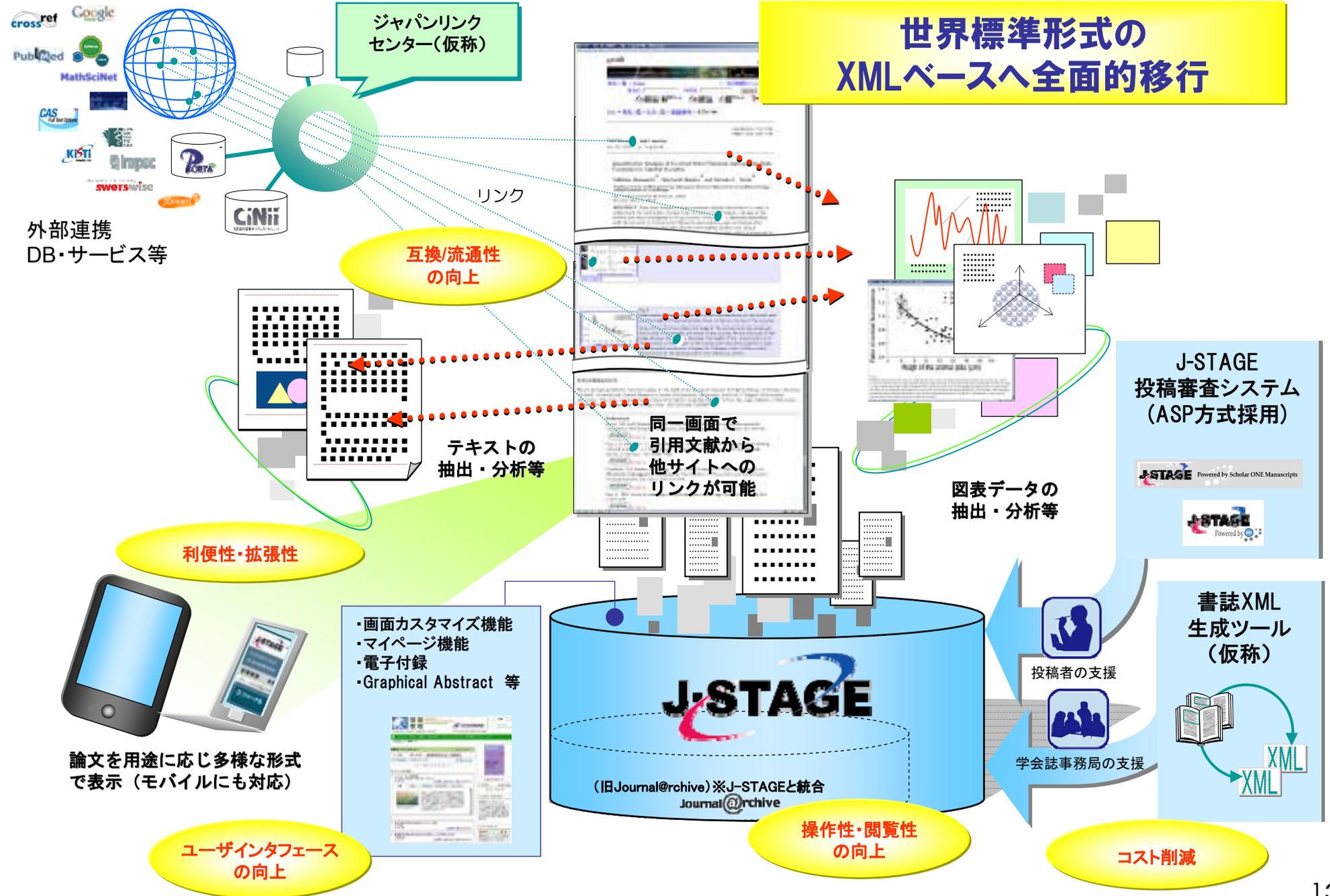


CPST 出版局長、  
JPST 編集主幹  
東海大学工学部  
光・画像工学科  
中村 賢市郎 先生





# J-STAGE3のインパクト 平成24年度早期



# ジャパンリンクセンター (JaLC; 仮称) のインパクト 平成24年度早期

## 【電子ジャーナルへのアクセス性が向上】

- ・論文の全文、図表、引用文献等の情報が入手し易くなる。
- ・ジャパンリンクセンターが国内外電子ジャーナルサイトをつなぎ、最新のリンク情報を取得できる。また、平文解析リンク作成機能、誤リンク検出機能によりリンクの品質が向上する。

### I 全文へのリンクの実現

国内外のデータベース→国内外電子ジャーナルサイトの論文全文へ  
 国内の電子論文(研究所報告、大学紀要、各種レポートなど)にDOI(\*)を付与することが可能となる。  
 (図表等にも付与)

### II データベース間の相互リンク

### III 引用文献・被引用文献のリンクの実現

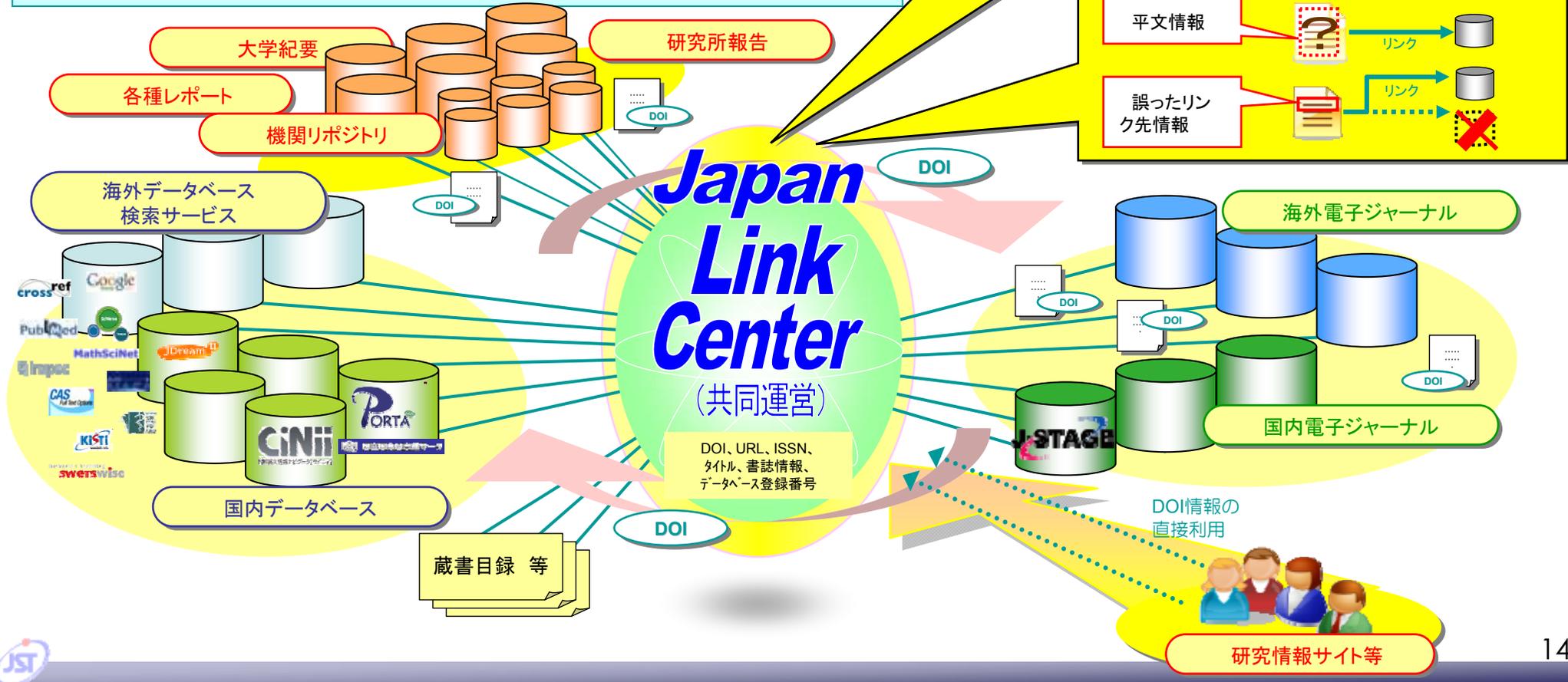
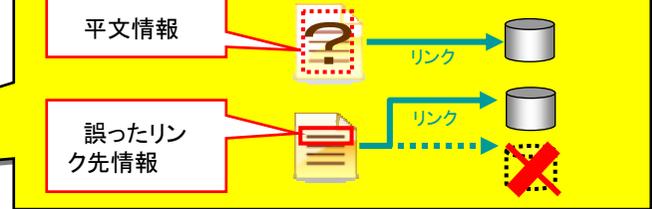
国内電子ジャーナルサイトの論文→引用文献の全文へ  
 国内電子ジャーナルサイトの論文→被引用情報へ

### IV 冊子体の所蔵案内の実現

## 国際的に使われている識別子DOIによる全文リンクの実現



## 最新、高品質のリンク情報の提供



## ■ 科学技術論文発信・流通促進事業推進委員会委員名簿

	氏名	所属
委員長	小林 良彰	慶應義塾大学法学部 教授
副委員長	五神 真	東京大学大学院理学系研究科 教授
委員	佐藤 学	東京大学大学院教育学研究科 教授
"	谷口 直之	独立行政法人理化学研究所基幹研究所 グループディレクター
"	柳田 充弘	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 主任研究員
"	河野 長	東京工業大学グローバルエッジ研究院 特任教授
"	武藤 寿行	国立国会図書館 主題情報部長
"	東倉 洋一	国立情報学研究所 副所長
"	小山内 優	独立行政法人日本学術振興会 研究事業部長
"	北澤 宏一	独立行政法人科学技術振興機構 理事長

## ■ ジャパンリンクセンター推進検討委員会委員名簿

	氏名	所属
委員長	中元 誠	早稲田大学図書館 事務部長
委員	尾城 孝一	東京大学附属図書館 情報管理課長 (国立情報学研究所 学術基盤推進部図書館連携・協力室長)
"	佐藤 義則	東北学院大学文学部 教授
"	武田 英明	国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター長
"	田中 久徳	国立国会図書館 総務部企画課長
"	谷藤 幹子	独立行政法人物質・材料研究機構 科学情報室室長
"	田村 直子	農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波事務所国際情報調整官
"	林 和弘	社団法人日本化学会 学術情報部課長
"	大倉 克美	独立行政法人科学技術振興機構 知識基盤情報部長
オブザーバ	土屋 俊	独立行政法人大学評価・学位授与機構 教授
"	鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課長
"	後藤 祐介	文部科学省 研究振興局情報課

## ■ 科学技術論文発信・流通促進事業 アドバイザー委員会委員名簿

	氏名	所属
委員長	中野 明彦	東京大学大学院理学系研究科 教授
委員	小川 桂一郎	東京大学大学院総合文化研究科 教授
"	越智 久美子	社団法人日本薬学会 学術課
"	小梅枝 正和	社団法人日本農芸化学会 総務主幹
"	三原 隆志	社団法人高分子学会 編集課
"	小重 忠司	社団法人日本機械学会 出版・販売グループ課長
"	高島 章子	社団法人日本分析化学会 総務課
"	竹内 基樹	日本学士院 会計係 文部科学事務官
"	竹崎 陽子	株式会社金芳堂 日本薬理学会誌出版部 主任
"	太宰 達三	社団法人応用物理学会 刊行業務部長
"	千葉 博紀	社団法人日本金属学会 公益目的事業グループ 会誌・欧文誌担当 副主任
"	橋立 安雄	社団法人日本内科学会 副主任
"	林 和弘	文部科学省科学技術政策研究所 客員研究官 社団法人日本化学会 学術情報部 課長
"	三上 正男	社団法人日本気象学会 気象庁気象研究所 環境・応用気象研究部 研究部長
"	水橋 慶	社団法人電子情報通信学会 出版事業部
"	山下 和子	社団法人化学工学会
"	大蔵 聡	日本繁殖生物学会 名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授
"	橋本 勝美	日本疫学会 国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報・統計部

※順不同、平成23年4月現在  
(所属等は今期就任時のもの)